
I S に変革者・・・の怠け者

紅刹那

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ISに変革者・・・の怠け者

【Nコード】

N7469Y

【作者名】

紅剎那

【あらすじ】

入学式に向かう途中電車にはねられて死んでしまった大学生がISの世界に転生するお話です。

処女作&駄文しか書けないので精進していきます。

ブローグ

(だるい・・・)

3月4日 電車の中には、周りはスーツを着ているサラリーマンや新学期だ、と言っている学生がいたりする。その中で外を眺めている18歳の青年はぼやいていた。

彼は、普段電車は使わず自電車で中学から高校まで、通学していたが今年から大学生で今スーツを着ている。彼は大学の入学式に行く途中なのだが、新たな期待に胸を含ませるとかではなく、入学式がただめんどくさいと考えていた。だって長ったらしい校長のあいさつなんて嫌だろ？

どうやって長ったらしい校長のあいさつを潰すか考えている木村きむら暁あきであった。

(どうしようかな…あ、ここで乗り換えだ)

電車から降り 階段を上がり 視覚障害者誘導用ブロックの所で電車が来るのを待つ

(あ きたき「ドゴッ」…………え?)

突然後ろから押さて落とされる感覚におちる、そして、目を動かすと電車が猛スピードで・・・

h?

辺りを見渡してみるが、そこには電車もなく駅のホームでもなく、ただ白いペンキを天井・床・壁に隙間なく塗ったような空間の中で、白い布のような服（ギリシャの神の服のような）を着た女性がいた。そして、

「すいませんでしたあああああ――――！！！」

いきなりうるさい人だな

「すいません……」

しよぶくれた、そして心読まなかったか？

「一様神様なんで、実はこちらの不手際であなたが死んでしまっ
たんですよ。」

「へー、後ろから押されたけどあれのこと？」

「はい」

↑

「怒ってないんですか？」

怒れば生き返えさせてもらえたりするの？

「あなたの体は、グシャツつとつぶれてしまっているので不可能です…すいません」

じゃあ、どうしようもないじゃん。連れて行かれるのは天国？地獄？

「いえ、あなたが行くのは別の世界です。こちらの不手際で死んでしまったわけですからもう一回、人生を歩んでもらいます。」

えーだるい魂消滅とかじゃねえの？

「嫌なんですか？」

だってこいうのって死亡フラグ満載な所に飛ばされるんじゃない？

「そうですね、そしてもう決まっていますよ。」

なーんか死亡フラグな予感

「そうですかね？インフィニット・ストラトスですよ、あなたが飛ばされる世界は。」

ISという女性しか動かない機械ができて、主人公がISを動かしてしまっただっていうアニメ化された奴？

「はい」

まあ ほとんど現代社会とおなじだよな 死ぬ確率はそんな高くないかな？

「そうですね。今回こちらの不手際なんで能力や願いが5つ与えることができます。あ、今までの記憶は引き継いでいるので、あと、もうこちらで主人公と同じくI S動かせることになっていますので、かなえられる願いは4つですね。」

え？なんで動かせるの？

「え？ 先輩方は転生者が来たときに一番多い願いがこれだったので、早めにつけてしまいましたがいけませんでした？」

まあ、憧れるけどさメンドクサイことが起きそうだね…まあいいや、1つ目は開発チート 2つ目はG Nドライブの入手、えーとアニメで使っていたオリジナルのやつ5つで。

「はい。3つ目は？」

3つ目は経験値急増蓄積かな？

「えーと、すみませんどういった能力ですか？」

R P Gのゲームとかだと経験を積んで強くなるけど、俺の場合人の何倍の速度で経験を溜めることができて、何年たっても衰えないってとこかな。

「はい、アニメとかラノベとかで見なかったなので、どういう能力かわかりませんでした。」

神様もラノベとか読むんだな…

「はい！もうユニコーンとか面白くて！！主人公がなんで説明なしにユニコーン動かせるんだよとか――――――――――

――――――――――最後に出てきたあれとか続きが早くみたいです！」

やっぱり趣味の話とか饒舌になったりするよね、そして長い…

「すみません。で4つ目は？」

んー 向こうについてから考えるとかだめ？

「まあ、いいです。連絡手段とか携帯に入れといてよろしいでしょうか？」

んー 携帯手に入れたときになぜかアドレスが入っているという形でお願いできますか？

「はい、いいですよー」

ん、いろいろあんど

「いえ、では次の人生ではご迷惑かけないようにします。では」

その言葉を聞いた瞬間黒い穴がでてきてその穴に吸い込まれた

そして

「がんばりましたね、元気な男の子ですよ。」

本当に転生したよ俺

今幼稚園児です

俺が転生してから4年たった。え？その前はないのかって？無理だって赤ん坊のやれることって寝る食べる寝るぐらいしかないんだ（食べるじゃなくて飲むか？）それに作者にそんなこと出来るわけないだろ？ただでさえ面倒なのに……って作者って何だ？まいつか。

俺の名前は前世と同じく木村 暁^{あき}だ。今は保育園児である。

で神様からもらった能力だが積極的に使ってない、使う気もないというのも1つ目の能力開発チートは、ISができるのなら技術者でもなれば食っていけるだろうって思ったからだし、2つ目のGNドライブは、そりゃ開発チートもらってたんだからガンダムつくってみたいが、4歳児がそんなの持っていたらおかしいので前に父親に買ってもらったGPS付き携帯に入っていたアドレスで神様と連絡を取り「必要になったら届けてくれる？」とお願いしてみた。で「はい。4つ目の願いには入りませんのでしんぱいしないでくださいね」といつてきた、

「話とか聞いてもらってもいい？こっちで事情知っている人とかいないからさ」

「けっこっこつちは暇なことが多いのでいつでもいいですよ」といつてきてくれた。

そしてまだ、4つ目の願いは考えていない。

3つ目の能力の経験急増蓄積は、最初からチート能力持っていて使ったところをみられたり、ばれたりすると厄介事になりそうだから

ら、周りにいる園児たちとほぼ身体能力は同じである。

まあ、荒事が起きた時逃げられるように足は鍛えているが。

で、今木陰で寝転んでいる。だって実際年齢20歳以上のやつが4、6歳児と一緒に遊ぶって、気が滅入る。というわけで今日もねy「あの・・・」・・・なんだよ

side 織斑 千冬

きょうは としたのひとたちとあそんでみよう とせんせいがいつて みんなぐるーぷをつくりはじめた。わたしは たばねちゃんとぐるーぷになったけど ほかみんなはこっちにこようとしな

せんせいがこっちにきて「ねえ」とはなしかけてきた けどたばねちゃんは「うるさい」っていったでもせんせいはつづけて「あの木の下にいること組んできてくれないかな？あの子も友達いないの、だから友達になってあげて？」ってせんせいがいった。

だからいつもひとりでいるのかな？ おともだちがすくないのならすくないものどうしおともだちになれるのかな？

わたしのせいでこわがれるかもしれないけど。

side out

あーなんか二人組がこっちに来て黒髪の女の子が俺を見下ろしている

「わたしはおりむら　ちふゆっていいいます。」

・・・おりむら　ちふゆって織斑　千冬か？原作キャラじゃん・
でも自己紹介されたら、返さんとあかんよな　俺は起き上がった

「あー木村　あき暁記憶の片隅にでも置いてくれ。」

「ほらたばねチャンもあいさつして。」

「えー　めんどくさいよー」

・・・うん確定　後ろのやつは篠ノ之　束だろうな

「それに　こんなやつともだちになつたて　いいことないよ。
おたくで　きもくて　いんしつで　ねくらそうだもん。」

毒舌設定はこの頃でもあるらしい、きもい以外は同意してもいいが俺ってそんなにきもいだろうか？

「で何の用？」

とりあえずかかると面倒なことになりそうだ

「おともだちになろう？」

「どうしたら友達になれるの？」

前世から思っていたことだがどこからが友達なのだろうか？そのことをクラスメイトに聞いてみたら一緒に遊びに行くのが友達・他人の家に上がって遊んだり泊まったりするのが友達、中にはしゃべったら友達というやつもいた。

俺は、誰かと遊びに行ったこともないし、誰かの家に行ったこともない、しゃべったのは学校での発表での意見や必要事項の連絡ぐらいだ。

まあ 寂しい奴だと思えばいいけどさ、束が言ったこともあながち間違いない。（アニメとか好きだしな）

「あそべばいいのかな？」

「何かしたい？」

「おまえみたいな ねくらとあそぶなんてありえない。」と言って腕に抱えたノートPCを立ち上げる束

「わたしは…その…したいことがおもいつかない。」といって束のほつを見るて束が「だったらたばねのPCみればいいよ！そうしよ！-」といって強引に袖をひっぱり隣に座らせる。

「じゃ 俺は寝る。」とお「おまえにはなにもいってない」あつそうですか

こうして帰る時間になるまで俺は寝て 織斑 千冬は篠ノ之 束のPC画面を見続けていた。

夜

「もしもしー 神様今ひま？」

『はいはい暇ですよー。異常がなさ過ぎて新しい世界でも作ろうとしてました。』

「暇だからって新しい世界つくるって大事じゃないのか？」

『いえいえ、ドラえものの映画にでてきた創世セットで作るので半日あれば十分です。』

「・・・ドラえもんが神の頂点なのか？」

『まあ 死神だったり創神だったりいろいろいるんですよこっちは。』

「ブリーチとかな世界もあるのか？・・・ってそういうことじゃなくてさ」

『何なんですか早くしてください、こっちは急いでいるんですから』

「・・・さつき暇だから世界つくろうとしてたとか言わなかったか？」

『後輩がちょっとへましたようです。でそのサポートしなくちゃならなくなりました。』

「ああ、じゃあ 今日原作キャラにあっただけどさげな『原作ブレイクしてかまいませんよ?』なんでさ？」

『あなたがいるのは原作とは違いISの並列世界ですから、まあ原作ブレイクしてしまっただけは何が起きるかわかりませんが。』

「ふーん」

『あと原作とは少し違ったことが起きるかもしれません。』

「たとえば？」

『そうですね。織斑千冬と織斑一夏の年齢差が違ったり、原作ではミサイルが飛来してくる数が200ではなく多かったですりするかもしれません。』

「そうなんだ。まあ何が起きても巻き込まれなきゃいいだけだし、後輩助けてきてあげなよ神様」

『一様名前があるので言ってますがアテネです。神様では味気ないですし信仰心もないでしょ?』

「当たり前やがないか。命は助けと貰って感謝はしてるけどなんで信仰せにゃならん。というか手違いで殺されたし。」

『まあ、信仰があたってもなくてもどうでもいいんですけどね、仕事ですし。』

「まあ、仕事がんばってアテネ……って首都との名前じゃね？」

『被っているだけです。では』ピッツー……

「原作ブレイクねえ……まあ関係つくったところで大きくそれることはないだろうな。」

今幼稚園児です（後書き）

こんにちは 紅刹那です

今は竜頭蛇尾の勢いで書いてます（それじゃあかんたる

こんな駄文しかかかない作者ですがどうかよろしく願います）
それって一番最初に書かにならんのじゃね？

幼稚園の日々

幼稚園では前まで1人で木陰で寝ていることが多かったが、ここ最近では1人ではなく3人になっていた俺と織斑と篠ノ之である。

あれから3日くらいたつが何か進展があるわけではなく、俺は寝て、篠ノ之はPSのキーボードを叩き織斑はPS画面を見つめる。で他の園児たちは、遊具で遊んだり砂場で小山を作っていたり、でときどき織斑が行きたそうにそわそわしている。

「混じりたかったら混じってきたら？」

「だってみんなこわがるから・・・」

確かに織斑はツリ目だから睨まれているようにも見える。だった
ら・・・

「ちょっと来てくんね？」俺は立ち上がって園児達が多い砂場に向かう

「え？」

織斑は戸惑いながら俺についてきたそして

「はい、ちゅーもーっく!!」

といって園児がこちらをみると同時に織斑の後ろに回り（足鍛えておいてよかった）目のあたりの皮膚を上、横、下とひぱったり回したりしてみる。

目が怖いのなら目を面白くしてやればいいんじゃない？って考えたわけだ俺は。そして

「「「「あはは」「」「と園児達は笑い「おもしろいかおー」「もういつかいやって」とか言ってきた。

「ねえ、いつしよにあそぼ？」と誰かがいい

「うん！」

ふー失敗したらどうしようかと思った・・・

で俺はもとの木陰へと帰る・・・え？織斑達と遊べって？これ以上フラグ立ててどうすんの？というか幼稚園児と遊んで俺が楽しめると思うのか？PSPでアーマードコアやっているほうがまだましじゃね？というかそっちのほうがおもしろい。

って篠ノ之どうしよう。まずい俺が織斑を自分から奪った形になってしまう。俺の計画では篠ノ之もついてきて2人には園児の輪に入ってもらうつもりだったのだが・・・これでは1人孤立してしまった。やヴあい えーと・・・

「織斑が砂場で遊んでいるけど行かないのか？」

「ゆうどうしてなにいつてるの？ばかなの？しぬの？」

「馬鹿ではあると思うけど死ぬ気はないです。そしてごめんなさい。」

「フン」

それから篠ノ之は今までと同じようにPCのキーボードをたたき続けた。ただ今までのキーボードは流れるように音を奏でていたが、この日は力押しでたたいているような音が聞こえた。

それから次の日、今日も俺・織斑・篠ノ之の3人が木陰にいた。途中織斑は園児から声をかけられ遊ばないかと誘われた。その時、織斑が

「2りもいつ」

と織斑がいつてきた

「ちーちゃんがいうならいく」

よっしゃああああああ。これで篠ノ之は孤立しなくて済む。そして俺は篠ノ之からターゲットから外される。将来ISつくって世界征服しようとするればできるからなこいつ。

そして、俺は安心して日々を寝て過ごすことが・・・「きむらくんもきてよ」・・・え？

「Why？」

「え？」

「声かけたのって篠ノ之とそっちの子だよね？」

「ちがうよ。たばねちゃんときむらくんだよ？」

これ以上フラグを立ててはいけない、そんな気がする。

「えーと、これからお昼寝しないと俺は一日の睡眠時間20時間を達成できん」「ちーちゃんのいうことはぜったいの、ついてこなかったらつぶすよ？」はい遊びましょう・・・」

なんでだろう白い悪魔がいた気がする。

んで、かくれんぼをすることになった。

参加者は園児13人（俺も含めて）で鬼は織斑とさっきの声を掛けてきた園児そして現在スタートから18秒経過、あと12秒のうちに隠れなくてはならない。

よし木の上か屋根の上に登ろう、そうすれば見つけずらいさらに木なら昼寝できるし、屋根の上なら日向ぼっこだ。ということで木陰で寝ていたので屋根の上に登る。

え？どう登るのかって？この幼稚園2階建てでハシゴが2階の壁

についてある。しかし危険防止のため園児には手が届かないが、俺は足を鍛えているため跳躍で手をハジゴに引っ掛けることが可能である。3つ目の能力で足だけは鍛えていた成果が今出た。そしてのぼって・・・

篠ノ之がいた。

「どうやって登ったの・・・」

「そっちこそどうやってのぼってきたの？」

「跳んで」

「あっそ、でもここはわたしのかくれば。どっかいけ」

しかたない 物陰にでも隠れるとしようかなと思ってハシゴを降りはじめ・・・「ちよつとまった」なんか声かけられた。

「なに？」

「・・・なんでおこらないの？」

「何に對して？」

「たいていバカつていわれたらおこるでしょ」

「本当のことじゃね？」

「じかくがあるの？」

「それもあるが、篠ノ之が俺をバカって思っているならそれが俺の存在ってことになるんだろ？」

「じゃあ、あんたはわたしをどうおもってるの？」

「うーん・・・織斑には心を開いているけどそれ以外の人はどうでもいいって感じな人」

「ちがうよ」

「そうなのか？」

「わたしがこころをひらいているのは、ちーちゃんのほかにほっきちゃんといつくんだよ」

あれ？もう一夏と暮って生まれてんのか？これがアテネの言っていた原作とは違ったことが起きるといふのはこのことだろう。

「っそ」

「なにそのへんじ」

「いや俺関係ないじゃん」

「そうだけど、であんたはあたしにばかとおもわれたままでいいわけ？」

「べつにいいよ。そういう風に見られるのが嫌になったら、変えていけばいいだけだと思うし。大変そうでやりたくないけど。」

そう言い終わったとき下から「きむらくんみーっけ！」って言われた。

そういえばかくれんぼの最中だったな…

「あんたのせいでわたしまでみつかるじゃない！！」って篠ノ之が大声をだしてしまつて「そこにたばねちゃんもいるんだ　でてきてー」って織斑の声が聞こえた

「あんたのせいでみつかったじゃない」

「見つかるのが嫌なら出てくるなよ」

「ちーちゃんがでてきてーってでていくしかないよ」

どんだけ百合なんだお前は

そして、せんせいに屋根は落ちることがあるからもう登るなどおしかりを受けた

帰り道に篠ノ之から蹴りをくらうはめになってしまったのは不運だと思う

幼稚園の日々（後書き）

んー 篠ノ之束どうしようかねえ
…

なんかツンデレ化してきた

幼稚園の日々 2

今日も木陰の中で寝ようとしていたのに織斑のやつ最近また俺を誘おうとしてきた。

あの日から、遊び仲間が増え笑っている姿をよく見かける。あーやだやだ。

え？何がいけないかって？

だって、子供達って相手にすると疲れてくれんだじえ？例えば、最初のうち熟語やらことわざやら知っている言葉（子供達はまだ覚えていない）を言って言葉が通じなかったり、それなに？って言われていちいち説明するのがメンドクサイ。

篠ノ之の方は織斑とは遊びたがるが他の子たちとは遊びたがらない。で、子供たちの人間関係を崩すわけだ。

あそこから、関係を作るのは難しい、「嫌な奴」というレッテルを貼られていると思う。もともともかもしれないが。

どうしようか？

で今の時間はお絵かきであつたりする。

俺は前世の記憶があるから、ガンダムやらアーマードコアの機体やら書いていたりするわけだが脳内に、数式やらなんかよくわからないイメージが出てきたりする。たぶんこれが開発チートの能力なのだろう。で紙の裏側にその数式やらイメージやら書いている。

「なにかいてるの?」といって紙を覗いてきた織斑が言う。俺は書くのに夢中で聞いていない、今のうちに書いておかないと忘れてしまうのでは?と思うしやっぱあこがれるかなあ

「すごいもじがおおいね　ねえたばねちゃんなんてかいてあるのかわかる?」

「・・・・・・・・・・・・・・・・」黙り込む篠ノ之

「たばねちゃん?」

「・・・・・・・・・・・・・・・・おい」

俺は書くのに夢中で聞こえない

「・・・・・・・・・・・・・・・・おい!

俺は書くのに夢中で聞こえない

「・・・・・・・・・・・・・・・・おい!

!.....!」

俺は書くのに夢中できこえん「パンツ」

「いてっ」

ハリセンで叩かれた。なんでやん

「なに？」

「これあんたがかいたの？」

「そうだけどなに？」

「もつとみせてもらっていい？」

「いいけど・・・」・・・あ やべみせちゃったよ さすがにこの歳では篠ノ之もわからないだろうと高をくくっていたが、こいつ原作じゃ天才なんだ。今書いた数式やイメージがこいつには分かっってしまう可能性がある。というか真剣に見ているのは分かっているのだろう

一波乱ありそうな予感 大丈夫か俺？

幼稚園の日々 2（後書き）

今回少なかったかな？

小学校へy

前の話からいろいろと篠ノ之が話しかけるようになってきて、原作介入確率が高くなってきあがった。

メンドクセエー

さらに1学年違うから、幼稚園に残ろうとするは卒業式は潰そうとするは・・・止めるのがきつい。それで、卒業してから幼稚園で待ち受けて一緒に帰ろうとする・・・ハア

それで小学校は別にしようとか家より離れた学校選んだら、あの糞野郎（この場合糞女か？）が工作しあがって同じ学校になっちゃった・・・

入学式何があつたか聞ukai?聞きたい人は聞いてくれ（もしくは読んでくれ）

sideアキラ

今俺は今年から入学する学校の体育館にいる。

そう、あの天才（天災）のいる学校だ。

まあ、かわらなければどうということとは・・・というか登校拒否していいだろうか。前世じゃそれなりにまじめに学校に通っていたが。登校拒否している二ート達の気持がわからなくもない。鬱だわ入学初日から・・・

で、目の前に広がっている光景がすごい。花火がバンバン飛んで、ラッパが窓が揺れているほどの大音量で鳴り響き、さらに大抵「入学おめでとう」とか書いている看板が「入学おめでとうーあつくん」とか赤いペンキで乾く前につるしてしまったのかところどころ垂れているのが書いてある。もう血で書いたんじゃないかね？ってぐらい赤かった。時間がたつにつれ黒ずんでいったけど・・・血じゃないよね？

で、そんなことをするやつは俺の知っている中で1人しかいない、というか思いつかん。

「あつくううううんーーーーー！！！！！」

なんか篠ノ之が世界記録変られる速度で突っ込んできた。それに對して俺は篠ノ之の腹をなぐってやる。

（。。。。ΣC=（――；

「ぶぎゃあああああああああああああああああああ」

顔文字からはわからんだろうがまあ世界チャンプ候補のボクサーのパンチぐらいだと思ってくれ、なんか真似してたら身に付いた。

「ひどいよあつくん！ハグだよハグ！おめでたいことがあったら親しい人とハグするのは常識だよ！！あつもしかしてあつくんはキスがおのぞm」「ブルルルアアアアアアアア！！」「ゴッフ」

「何がおめでたいの！？血みたいな字でおめでとうと書かれてもちつとも嬉しくねエよ！他の子怯えてるし、うるさいし、迷惑千万だろ？！そしてハグって欧米かよ！」

「なかなか古いネタを使ってくるねあつくん！！」

もう一度殴って篠ノ之を沈黙させ、入学式は、看板やら花火やらを撤去して開催された。

ちなみに篠ノ之は織斑からO H A N A S H I されたりしい。

「東、どうして放課後まで待てなかった」

「だってー」

「放課後になったらお持ち帰りしようと言ったのは東だぞ？そしてお持ち帰ったら」

「ちーちゃんと東さんの魅力であつくんをい ち こ ろ 」

それからまた篠ノ之は氣絶したとか「やめてくださいすいません
でしたスイマセンデシタスイマセンデシタスイマセンデシターー
ー」とかうわごとをつぶやいていた。

小学校へy（後書き）

今週から研修です。

次は12月いこうとなるだろうかと・・・

現在中学生

今俺は町はずれのゴミ捨て場でゴミを漁っている。別にホームレスになった訳ではない。

現在の俺は中学2年生なのだが、中学に入って機体をつくり始めたのだが、まだ完成していない。技術的な問題ではなく、資金的な問題である。

中学2年のこずかいなんてたかが知れている。配電コード、電子部品、装甲、いろいろ必要なのだが、専門店やネット販売で全部そろえられるわけがない。

というわけで、資金面の問題をこのゴミ捨て場でどうにかしようとしている。

まず機体に使えそうな部品を集めるのと、直せそうな機械を集める。

直せそうな機械は、直してリサイクルショップやバザーなんかで売って資金を集めている。売った金額は結構な額になっていると思う。

（まあどうでもいい話だが、こんなところでゴミを漁っているせいか学校で、汚いだの・臭いだの言われ印象は良くない。そのため友人関係もほとんどいない。）

俺の記念すべき最初の機体は「CR」（コア）と名付けた。形状はアーマードコアネクサスの初期の機体で、ジェネレーターにはG

Nドライブを想定している。

え？Oガンダムじゃねえのかよって？

Oガンダムは、GNフェザー、ビーム兵器、Eカーボンなどの高技術をもっているんだ。そこが問題。

今の俺には金がない。で、Oガンダムを再現するのにかかる費用を計算してみた。

．．．．．うん無理（
ω・、）悲しいねバジーナ

まあ、今ある方法でつくっていくしかない。

で、機体状況だが完成度70%ちょいというところである。つくり始めて1年と10カ月ぐらいたった。

まだ、左腕部が完全ではないし武装は初期武装を想定しているがレイダー（CR-WB69RA）以外はない。

心もとないがエアガンを改造し、小型化・連射強化・威力強化してガンダムでいうところのバルカンを作成。カテゴリーはインサイドとエクステンションにして取り付けてある。形状はハンドガンの取っ手をなくして、3本並べ後ろの方に弾薬（パチンコの玉）の箱があるような形だ。

威力はコンクリートに1cmめり込むところだ。

推進力にはGN粒子のフォトン崩壊現象を使い、ブースターは排気口の奥の方に小型のGNコンデンサーとエネルギーケーブルをつないでいる。

装甲は、その辺に放置してある車から抜き取り、溶接機でつなげたりしている。それにGN粒子を吸蔵させ防御力をあげ、軽量化にも成功している。

こんな感じだろうか。結局のところ性能なら第一世代のISに負けている。現代兵器でも上回ってはいるのだが数で攻められれば、負ける。

こちらのアドバンテージは、GN粒子の通信妨害・レーダー妨害・質量減少・慣性力の減少ぐらいだろうか？

だが、慣性力の減少・レーダーに映らないステルス性能はISのもあるはずである。たぶんだが質量減少も幾分があるだろう。

だとすると「CR」は白騎士事件の時に出さない方がいいのかもしれない。そもそも「CR」をつくったのは、アテネが言っていた原作とは違うということが白騎士事件で起きるかもしれないからである。

で、今のスペックだとやばい。ミサイルは何かなるかもしれないが、ミサイルを撃墜した後に各国から戦闘機やら巡洋艦やらうじやうじやでてきたはずである。

それらと対峙することになると、いくら俺が普通ではないとはいえ生身の人間だ、銃弾で撃たれば死ぬ。それに相手を生かしたまま倒せるほど余裕もないだろう。

遠くから様子を見て危なくなったら助けて、とつとと各国の戦闘機が来る前に、逃げる。

うん。これでいこうか。

『ブーブー』

「やべっ、道場の時間過ぎてる」

俺は携帯のアラームを消し、近くに止めてあった自転車で道場まで走る。といっても、もう遅刻だろうが・・・

小学6年の終りぐらいまで織斑に誘われ続けていたのだが、無論、めんどくさそうなので断り続けていたら業を煮やしたのか、織斑が

真剣持ってリアル鬼ごっこになった。

あれ？

Qなんで真剣持ってるの？

A道場からもらった

Qなんで振り回せるの？

A稽古しているからな

らしい

こいつもチート能力もった転生者か！？とかおもった。

まあ、経験値急増蓄積のおかげで、高校生とも互角に近い試合を
することができる。

織斑は国内優勝候補に全連勝してたが………。

うん。チートだ。

で、今道場につき自転車を止め道場に入るとそこには、

鬼がいた。

「誰が鬼だ。」

「なんで心読めるし。」

ほんとなんで？

「顔に書いてある。で、遅れたわけは？」

「ゴミ捨て場でゴミ回収して『シュツ』！！」

俺は危険を感じ、反射的に後ろに下がったそして手前を何かが横切ったので見てみると、真剣だった。

「まったく、なんで私の剣は避けられるのにお前は不抜けているのだ？」

「俺が不拔けているのは何時ものことだ、そしてなぜおれを殺そうとしたし!？」

「私は、時間が守れない奴と不拔けている奴は嫌いだ。」

「だからって殺そうとするか？」

「避けたらうが。それに峰打ちだから安心しろ。」

よく見ると織斑が持っている刀は逆向きだった。

「安心ねえ・・・」

できないぞ俺は。

「それに木村さんたちからお前のことを頼むといわれているのだ。」

「

俺の両親は今ドイツで研究をしている。母さんがドイツ人で父さんが日本人。

なんでも研修で来た時に知り合い、付き合いだしたらしい。

母の眼が紅くて俺の眼も紅い。それ以外は日系人の黒髪に黄色い肌である。

俺はどこぞの心霊探偵の養父親でもないし、運命で主人公にならないキレやすい奴でもない。

この眼を小学生の時に、怖がれたり、気持ち悪がつたり、からかってきた奴がいたが、からかってきた奴らは、ちゃんとその言動や暴行を録音してぶん殴ってやる。

それでも懲りない奴は、翌朝ゴミ箱に頭から突っ込んでいる、という奇怪な現象に襲われたらしい。

なんというかこんな転生してぐーたら生きているのに、それでも育ててくれた人たちを馬鹿にした奴に、なにもしないというのは出来ない。

正義感とか良心とかではなく、ただ単純にム力つく。だから殴る。

「それにお前を殴るという楽しみが増えるしな。」

つと今は会話中・・・って

「おまつそれ、虐待。」

「大丈夫だ。阿呆の騾と言ってある。さて、騾ついでに死合いもしとくか。」

「待て字がちg」

それから、騾という名の虐待が始まった。

「いてえ・・・」

「大丈夫か？アキにい。」

「大丈夫に見えるなら眼科行け。」

今道場から出て座り込み織斑一夏とで 織斑千冬と篠ノ之箒を待っている。

そして俺は織斑（千冬）の方に賤という名の虐待を受け体の至る所に痣がある。

「でもすげえよアキにい。千冬ねえから一本取るなんて。」

「まあ、な。」

「30試合もして1本しか取れないとは情けないと思わんのか？」
いつの間にか鬼がうし「ゴッッ・・・ぐーで頭殴られた。」

「また、顔に出てるぞ。」

「俺の体は崩壊寸前です。」

マジで

「フン、まあいいだろう。」

やった許してくれた!!

そして、篠ノ之箒がきたので4人で帰ることにする。

ちびつこ二人は前で会話している。

いつもなら篠ノ之束もいるのだが。

「なあ篠ノ之最近見ないけどどうした？」

「なんやらパワードスーツみたいなものをつくっているらしい。」

どうやらもうそろそろ白騎士事件が起きるらしい。

急ごしらえでもいいから完成させておくべきか。

「あとアキラ、いい加減 織斑・篠ノ之ではなく名前で呼べ。紛らわしいだろうが。」

「織斑それ・・・」

「私の名前は千冬だ。」

「織斑千冬・・・」

「なぜ名字まで呼ぶ。」

「・・・千冬それはフラグだ。」

ほんとフラグにならないよな？

『でお金をどうしようか？と私に聞くのですか？』

「まあ、愚痴程度に聞いてくれれば。」

今アテネと携帯で話している。これから第二世代、第三世代をつくっていくのだから金は今まで以上にかかる。

現在中学生（後書き）

帰ってきました。

今回は白騎士事件でs・・・え？なぜOガンダムじゃない？

いや、あれはグレーだとかっこいいんですが、なんか気分で出し
たくなかった！！俺は平成ガンダムはだからな！

（00じゃなくね？）

白騎士事件

俺が中学3年になって1ヶ月たったころ、束がISを発表し政府がISの性能を認めなかった。

政府に発表した数日後、残念会をしたり・俺がISを見て強化プランを提示したり。（「見せて」といったらみせてくれた。・・・・いいのかそれで。）ISの強化は俺が白騎士事件に介入しないようにするためだ。

そして、1ヶ月半だったが、まだ白騎士事件は起きていない。

その間に株をやって金を集め機体改造費にし、できるだけ強化した。

で、今の機体状況だが

未完成だった左腕部は完成した。

GNDドライブもアテネから1個受け取り装備してある。（Oガンダムのオリジナル太陽炉）

武装関係はエアガンを改造しまくって、アーマードコアでの初期のライフル（CR・WR69R）の再設計した（CR・WR73R2）をつくった。

また、腰にマウントできるようにして装備している。

またそれぞれのエアガンを改造し

右腕部 スナイパーライフル（CR - WR73RS）

左腕部 マシガン（CR - WL74M）&レーザーブレード（CR - WL69LB）

バックユニットL レーダー（CR - WB69RA）

バックユニットR 小型化チェインガン（CR - WB72CGL）

インサイド バルカン（CR - I1B）

エクステンション バルカン（CR - I1B）勝手に命名

を取り付けてある。

初心者の俺が動く物体にあてられるか疑問だったため、ガンシューティングゲームで鍛えてはいるが大気の状態や反動制御がゲームにはないため不安だったので、打てば当たるの思考で連射、弾数が多いようにした装備をつくった。

弾丸は外国から輸入できるらしいのだが、日本に持ち込めるだろうか？ ということで弾はパチンコ玉・・・打ち落とせるのか？ミサイル

あと、試作段階のレーザーブレード（CR - WL69LB）は後ろの方に、GNフラッグのようなコードが付いておりその先端に背

中の小型コンデンサーからGN粒子を得ている。（配置場所はレーダーとの接続部分に長さ3cmの円柱がコンデンサーでその端にレーダーを取り付けた。）

だが原作ビームサーベルと比べるとダメな武器である。刃の部分が20cmもなく、またエネルギーの使用率も悪く威力も原作程ない。

確か同じ装甲を1度で切れたはずなのに、このレイザーブレードは何回も切りつけなければ切れない。

また、Oガンダムのもう一つのシールドも作り背中に斜めに取り付け、シールドの裏側にブラスターを取り付けた。使用時には取り外すのはマシガンのみでブレードは装着し続けることが可能だ。

これで機動力やら総火力やらが強化された。

また、一様トランザム可能機体である。ただし発動時間は短く最大継続で45秒、粒子出力も3倍ではなく1.8倍である。

まあ、ISに足元くらいにはおよぶ、ってぐらいの性能なのだろうけど。

本当に、株やって儲けなかったらヤバかった。未完成で出撃する可能性があるので。

『P R R R R R、P R R R R R』

携帯の着信音だ。

「はい。もしもし。」

『アテネです。今各国にハッキングされたミサイルが日本に向かってきてますよ?』

「え?」

テレビをつけてみる。そこには信じられないという顔のニュースキャスタが

『全国の皆さん落ち着いてください。いま日本にむかって2341発、いえ、さらに873発今発射されましたのミサイルが飛んできてます。』

とか言っていた。

確かに耳を澄ますと、悲鳴や怒鳴り声が聞こえてくる。

『で、どうするのですか?』

「とりあえず」

『とりあえず?』

「ファーストフェイズを開始する。」

『カッコよく決めたつもりでしょうが、ただ見ているっただけですよ？ ファーストフェイズって。』

いっなよ

家のカギを閉め、自転車を走らせゴミ捨て場に向かう。

ゴミ捨て場に到着し、自転車をその辺に止めすばやく「CR」を起動させミサイルの来る方向へ飛翔する。

「CR」出る！

恐怖がない訳ではない、ほんとなら関わらずにいたい。でもそれで取り返しのつかないことが起きたら？、もし俺の家に落ちたら？

もし町に落ちて人がたくさんいたら？誰だって死んだと聞かされていい気分にはなれない。結局のところ自分のためなのだけどさ。

俺は、力を持っているのに。

だから行くんだ。

もしのことが起きないように。

P l a c e 海上 S a e d 千冬

「ちっ
」

ミサイルを3発ほど同時に切り裂き、荷電粒子砲を呼び出し、

3と遠いほうのミサイルを撃ち落とした後　また、ISを加速させ縫うように進みミサイルをいくつも切り落とす。

「まったく、多いぞ束め。」

いくらISが現代兵器より強いといっても無敵というわけではない。確かにシールドエネルギーや絶対防御があるため死にはしないが、飽和攻撃を受ければいくらISでもきついだろう。

「くっ！」

そんなことを考えていたせいかミサイルがうじゃうじゃ向かってくる。

剣で切り裂き一瞬目の前が爆煙につつまれる。

この時ミサイルが3発　白騎士の横を通り過ぎ、日本へと向かいつつあった。

「！！っ。しま『ダンッダダンッ』・・・」一瞬何が起きたのかわからなかった。

通り越してしまったミサイルが自分の目の前で爆発した。なぜ？

その疑問は、爆煙が晴れてからわかった。

「灰色の・・・IS・・・？」

それは全身が灰色の箱のような無骨なデザインだった。

S a i d o u t

「あぶねえあぶねえ。」

ハラハラした心を落ち着かせるために言った軽口だ。

別に見過ごしてよかったはずだが、体が危ないと思ってしまったのか動いてしまった。

一発目をスナイパーライフルで撃ったのは、破壊できるか不安だったため、ではなく、俺が右利きだったため反射的に動いてしまった。その後の二はつめは落ち着きを戻しマシンガンが使えるかどうか調べるため弾膜をはり破壊した。

『大丈夫ですか？』

アテネが携帯電話ではなく、脳に直接響くようなそんな感じた。

「意識共有空間じゃねえぞ。」

『すいません。少しでもお力になればと着た次第です。』

「じゃ、ミサイルが来る方向を示してくれ。目線をレーダーと全面に見直すのきついんだ。見落とすかもしれない。」

『わかりました。』

フーッと深呼吸をした後

「「CR」目標を駆逐する！」

それから、アテネのサポートを受け白騎士と一緒にミサイルを叩く。

ミサイルを何とかすべて破壊した。ライフル以外の射撃武器は残弾数が半分を下回っている。

目の前には白騎士。

微動だにしない。

まさかな・・・。

白騎士事件（後書き）

白騎士事件はまだ続きます

白と灰

S a i d 千冬

『ちーちゃん、そいつやつつけて!』

ミサイルをすべて落とし終えた後に通信で束がそんなことを言った。

「協力した奴をか?」

『ISはISでしか倒せないって世界に見せつけないと意味がないんだよ。』

確かに今回の騒動はISの性能を世界に見せつけることが目的だ。

『ちーちゃんだけを印象ずけるはずだったのに・・・こんなんじや半減しちゃうよ。』

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

『それにあの機体の光通信を妨害するみたい。』

「こちらのレーダーも映りが悪い。種は速いうちに摘んだ方がいいということか・・・」

『ちーちゃんお願いできる?』

「・・・・・・・・わかった。」

協力したことは感謝する、・・・・・・・・だが束ためだ。

「目標を破壊する。」

そう、破壊するだけ殺しはしない。

S a i d o u t

どのくらい動かずにいただろう。そんなことを考えていた。

『気おつけてくださいアキラ。』

「ん？」

『彼女たちはISの性能を示すため攻撃してきます。』

「脳量子波でも使ってたのか？」

『似たようなものです。あなたの心を読んでいたでしょう？』

「千冬も読んでくるかな。」

『あなたが顔に出やすいだけです。』

そんな雑談していたら白騎士が剣を振り上げ突撃してきた。

速い

ミサイルを打ち落としている時にも見てもいたが、その一言に尽きる。

俺は後方へ下がり、左肩を前に出し右肩を引く様に回避行動をとるがこちらが速すぎて間に合わず、スナイパーライフルが切断される。

武器にかかった金を気にする余裕なんてない。

すぐさま左のマシニングをぶっ放す。

で白騎士は避けた。20弾全弾。

まで、いくらISの方が能力が上だからって1mの距離から1発

も当たらないのはおかしいだろ…。

とりあえず近づけさせない様にマシンガンの引き金を絞り、腰に装着してあるライフルを抜き両腕撃ちを始める。ついでにバルカンも撃ち続ける。

白騎士は近づいてきているのに、俺の弾膜はまったくついていないほどかすりもしない。

これはもうISの性能よりも千冬自身の方を恐れるべきだった。

そして、荷電流砲を打ってきて俺は避けるだが、それが相手の狙いだった頃にはもう遅い。

体勢を崩されたところに懐に入り込まれ切り裂かれそうだった。

なんとか左腕のブレードを展開させ

罅迫り合う。

「ビーム兵器だと!？」

バイザーで顔の上は見えないが驚いている様だ。

（それはそうだろう。ビーム兵器なんて軍でもどんな研究機関でも未だできていない。実用化にいたっているのは束のISぐらいだが、しかしこのブレードもまだ改良しなければだけどね。）

そして、蹴られて距離を離され再度の突撃。なんとか避けようとしたが間に合わずマシンガンが切断される、俺は背の盾を左腕部に装着させ未だ振られる剣を防ぐ、だが後方に飛ばされ、剣はそれに

とどまらず1振りまた1振りと切り続けられ、盾が耐久値を超えそうになる。

(くそっ)

このままじゃ倒されるだけだ。

俺は降下して海の方へ急ぐ。

白騎士も追ってくる。

そして肩のチェインガンを外しライフルを撃ち爆散させる。それが煙幕となり身を隠す。ここでコンデンサーにあるGN粒子をすべて解放させる。これで相手のレイダー機能を麻痺させることができず逃げ切れなかったら本当に死ぬ。

そして俺は海に潜り、逃げた。

S a i d 千冬

『ちーちゃん!』

「すまん。逃げられた。」

あの碧色の光の噴出のせいでレイダーがダメになった。

『ちーちゃん戦闘機が向かって来るよ。そっちを迎撃して。』

「……あの機体はいいのか？」

『もう無理、追跡不可能だよ。』

「わかった。」

撃ってきた戦闘機を人を殺さないようにぶった切った。

（あの機体に比べれば）

まだ撃ってくる戦闘機を次々と切り

（数だけの貴様らなど）

（どうということはない！！！！）

そこからは原作道理に戦闘機・巡洋艦・空母を人を殺さないように無力化し、忽然と消えた。

白と灰（後書き）

白騎士事件 終了

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7469y/>

ISに変革者・・・の怠け者

2011年12月8日04時57分発行